

中小企業あきた

1 モーグルW杯たざわ湖大会の特製メダルを製作 1 ～角館工芸協同組合～	1
2 秋田県ブースで販路拡大を支援 2 ～FOODEX JAPAN 2018へ出展～	2
3 日本銀行秋田支店の吉濱支店長と意見交換 3	3
4 富樫衆議院議員へ要望書を提出 3	3
○中小企業組合等支援施策情報 3	
○景況レポート 2月分 4	
○話題の広場	
中央会事業より 6	6
アラカルト 7	7
インフォメーション 8	8



TOPICS 1 モーグルW杯たざわ湖大会の特製メダルを製作 ～角館工芸協同組合～



[樺細工の特製メダル(写真提供：角館工芸協同組合)]

3月3日(土)と4日(日)に田沢湖スキー場(仙北市)で「2018FISフリースタイルスキーワールドカップ秋田たざわ湖大会」が開催され、モーグル競技及びデュアルモーグル競技の男女上位3名に、角館工芸協同組合(田口宗平理事長)が製作した樺細工のメダルが授与されました。

角館の伝統工芸「樺細工」を手掛ける45事業者により構成される同組合では、田沢湖スキー場で過去3回開催されたワールドカップでもメダル製作を手掛けており、今回が4回目となります。

今回の特製メダルは、桜の皮をふんだんに使用し、ガラスを重ねて装着したことで、ガラスを通して独特の模様が楽しめるデザインが特徴です。同組合の高島事務局長は「伝統技法『型もの』で作られた特製メダルが演出する桜皮の重厚感と柔らかさを感じてもらいたい」と話しており、機会があれば次年度以降の製作についても組合で手掛けていきたいとのこと。

今大会は平昌五輪直後のワールドカップであることに加え、五輪メダリストが出場するなど注目を集めたことで、期間中は多くの観客が詰めかけ、出場選手が見せる世界トップクラスの演技に会場は大いに盛り上がりました。

組合では、こうしたスポーツなどのイベントを通じながら、伝統技術による確かな品質の製品づくりを伝えることで、伝統工芸品「樺細工」の振興と地域経済の活性化に貢献していくこととしています。



[盛り上がりを見せるワールドカップ]